

妥協のない技術開発と人材育成で建設現場の業務効率化に貢献

同社は、土木建築における現場計測を主柱としたコンサルタントとして設立された。デジタル技術、センサー技術・ICT、ドローン等の最新技術を駆使し、建設事業者向けに各建設工事での最適な計測システムを企画して、計測機器の設置、データ取得、解析、技術判断まで、トータル的なコンサルティング事業を行っている。また、計測システムの開発で培った技術力を活かし、皇居東御苑内本丸「中之門石垣」の修復支援システムを提供する等、土木建築分野を中心に幅広い事業活動を展開している。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 広島県広島市東区福田1丁目665-1 | ● 設立 | 1972年 |
| ● 電話/FAX | 082-899-5471/082-899-5478 | ● 資本金 | 3,900万円 |
| ● URL | http://www.krcnet.co.jp/index.htm | ● 従業員数 | 102人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 花倉 宏司 | | |



妥協のない技術開発で付加価値の高いセンサー・システムを提供

構造物の耐久性に注目が集まる中、構造物の完成後、その健全度をモニタリングする必要があるが、これまでは、構造物に使用されているケーブル等の軸応力（張力）を長期に亘って管理するセンサーがなかった。そこで、同社は磁歪を応用し、簡易でかつ安価に計測可能なEMセンサーを開発し、経年後の健全度モニタリングを可能にした。また、現状に妥協せず、EMセンサーが最大160点接続できる専用スイッチボックスと自動計測プログラムを開発し、自動でかつ多点計測が可能なものに進化させている。



EMセンサー

最新技術を用いた自社システムで建設事業者の業務効率化に貢献

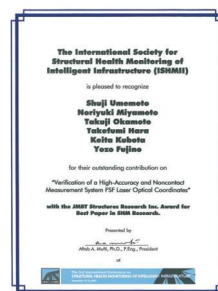
笹子トンネルの天井板崩落事故を受け、国交省は構造物の5年に1度の近接目視点検を義務化した。同社は、これらの点検を安全かつ効率的に実施するため、各種センサー機器やそのデータを活用した解析システム等を開発した。これにより、従来に比べて業務効率の向上や解析データ等の高精度化を実現することができた。また、工業用カメラやドローンなどの機器を用い高精度な画像を撮影し、展開画像からひび割れ幅を自動で判定する技術を提供することにより、建設事業者の業務効率化に貢献している。



走行型連続画像計測システム

学術研究機関との積極交流で社員の技術力向上を促進

近年、社員の確保が困難になる中、同社では、社員の知識・経験を補うため、学術研究機関との交流を積極的に図り、共同での研究開発を行っている。また、これらの知識・経験を社内でも共有するため、社内発表会を開催し、社員全体への知識の蓄積や技術力の向上を図っている。さらに、土木学会や国際学会等、幅広い分野の学会にも積極的に参加し、最新の技術情報を吸収するとともに、学会発表も積極的に行い、参加社員の知識の向上と他社員のレベル向上に努めている。



国際学会最優秀論文賞表彰状